

海外研修旅行と教科「情報」の横断的連携の探求

近江兄弟社高等学校情報科教諭

長谷川 友彦

hasegawa@ob-sch.ac.jp

1. はじめに

琵琶湖の東岸に位置する近江八幡市は、水郷や近江商人の古い町並みなど、風光明媚な土地柄で、いつも多くの観光客が訪れています。かつてアメリカよりキリスト教の伝道のためにこの地を訪れた一人の青年が、生涯近江八幡にとどまり多くの業を遺していきました。最近では建築設計で有名になった彼の名は、ウィリアム・メレル・ヴォーリズ。ヴォーリズ建築は日本中のいたるところで親しまれていますが、近江八幡市にもたくさんのヴォーリズ建築が存在し、観光名所の一つとなっています。

ヴォーリズ先生の建築した登録文化財となっている校舎がいまでも大事に使われており、近江八幡市の観光スポットの一つにもなっている近江兄弟社学園は、彼の妻である一柳満喜子先生により創立された幼稚園から高等学校までを有する総合学園です。「地の塩、世の光」を学園訓に、「世界人類を繋ぐ『平和の使者』として平和に貢献できる国際人の育成」を一つの柱とした教育が展開されています。

近江兄弟社高等学校は、日本で初めて海外への修学旅行を実施した学校として、その伝統を引き継ぎ、現在ではアジアを中心に海外8コースに分かれての分散型海外研修旅行を「国際人教育」の大きな取り組みの一つとして実施しています。

本校の情報科では、高校2年生時に必修科目として「情報C(2単位)」を設定しています。海外研修旅行も高校2年生で実施されることから、「情報C」の授業と海外研修旅行の取り組みを連携させる試みを始めました。

2. 「情報C」の年間の取り組み

2年生の必修科目「情報C」では、学園訓「地の塩、世の光」を実践する観点から、「コミュニケーション」をキーワードとして位置づけ、教科の柱

としています。^{1,2)}以下に、本校の「情報C」の1年間の大きな流れをまとめます。

前期	1	情報とは何か
	2	コミュニケーションの変遷
	3	プレゼンテーションの体験
	4	仮想空間におけるコミュニケーション
	5	インターネットと情報の活用
	6	研修旅行事前学習プレゼンテーション
後期	7	知的財産権の保護
	8	Webページの制作
	9	ネットワークとセキュリティ
	10	グラフ表現と問題解決
	11	情報社会を創造する

上に挙げたものは、大まかな表題であり、表題から内容が分かるように若干表題を変更しています。また、実際の授業では2つの項目をひとまとめにして一つの単元として取り扱った場合もあります。

前期では主に、情報社会になって新しく生まれしてきたコミュニケーション手段について、その特性や弊害などを考察したり³⁾、コミュニケーション手段の例としてのプレゼンテーションの体験をしたりといった内容を取り扱っています。後期では主に、Webページの制作やネットワークのしくみなどの内容を取り扱い、情報社会の新しいコミュニケーション手段を用いた情報発信を体験したり、その基盤としての情報通信ネットワークのしくみや成り立ち、大切な情報を守るためのセキュリティなどを取り扱っています。

実習授業では、情報の受け手である他者の存在を意識させることに重点をおいて指導しています。プレゼンテーション実習では直接コミュニケーションの、Webページ制作では間接コミュニケーションの特性を体験的に理解させることを一つの目的として取り組みました。表計算ソフトウェアを用いた実習でも、同じ情報でも表現の仕方

によって受け手の受ける印象が異なることを実感させる内容を取り扱っています。

3. 海外研修旅行と「情報C」の連携

先に紹介した分散型海外研修旅行は、生徒一人ひとりが自分の希望するコースを選択することができるため、同じ学級の中でも生徒によって行き先が異なります。海外研修旅行の事前学習は、行き先のコース別に分かれ、自分が出かける都市や国についての様々な知識や歴史などを学びます。

コース別学習会では、自分の行き先の都市や国については一定の理解を深めることができますが、他のコースについて学ぶ機会はほとんどありません。そこで、「情報C」の授業で一人ひとりに自分の行き先のコースについて相互に発表しあえば、互いの行き先のコースについて知ることができ、全体として国際的な視野が広がるのではないかと考え、「情報C」の授業と海外研修旅行の取り組みを連携させる試みを始めました。

実際の取り組みとしては、前期には海外研修旅行の事前学習で調べた内容のプレゼンテーションを、後期には同じ内容のWebページ作成、事後学習としての報告Webページ作成を行いました。

4. 事前学習プレゼンテーション

学年団の取り組みとして、夏休み前までに各自の行き先コースが決定され、コース別学習会が始まります。コース別学習会ではそれぞれがテーマをもって、夏休みの課題として調べ学習を行い、夏休み後のコース別学習会の中で発表会を実施します。

コース別学習会の調べ学習に役立てるため、同じ時期にインターネットでの情報検索の方法を学習し、コース別学習会で各自に与えられたテーマの内容をこの実習の中で調べる時間としました

(前述カリキュラム表:5)。夏休み明けには、課題として調べてきたものもあわせて、プレゼンテーションを実施しました(前述カリキュラム表:6)。

生徒たちには、プレゼンテーション用のワークシート冊子を与え、ワークシートを完成させることでプレゼンテーションのシナリオが完成するようにし、より学習がスムーズに行えるように工夫しました。

コース別学習会では、班ごとにテーマを決定するため、「地理」、「歴史」、「文化」などといった大雑把なテーマしか決定されていません。そのため、一人ひとりがよりテーマを絞り込みやすくするために、「情報C」で用意したワークシートに、プレゼンテーションの「タイトル」と「テーマの中心となる事柄」を書かせることで、調べる内容がより明確になるようにしました(図1)。たとえば、韓国コースの生徒がコース別学習会で「韓国の文化」というテーマを与えられてきたときに、タイトルを「韓国の食文化について」、テーマの中心となる事柄を「韓国での人気の料理について」といった具合に少しずつテーマの範囲を絞っていくように指導しました。

実際のインターネット検索を用いた調べ学習では、単に検索で出てきたページを見て終わりにならないように、ワークシートにメモ欄を用意し、ページの中で大事だと思った点についてメモを取らせるようにしました。このメモ欄は、「情報C」の授業と、コース別学習会の夏休み課題の両方で利用できるように、メモの右側に「メディア(書籍、インターネットなどを記入する)」、「サイト名、書籍名」の欄を用意しました(図2)。

夏休み後、プレゼンテーション発表のための資料作りを行い、プレゼンテーションに結び付けます。ワークシートの次ページの左側には調べた内容を分類ごとに整理するため、項目名とその内容

タイトルを右下に書込。テーマの中心となる事柄について考える

研修旅行のコース:	
国名(または都府県名):	
テーマ:(地理 ・ 歴史 ・ 文化 ・ その他)	()
タイトル:	
テーマの中心となる事柄	

図1 ワークシートの例

インターネットで検索などで調べた内容を右下にメモすること

必ず、何で調べたか(メディア)、「サイト名」または「書籍名」を明記すること		
内容	メディア	サイト名 書籍名

図2 ワークシートのメモ欄



図3 調べた内容を整理するための欄
左右見開きで同じ欄が並んでいる

を改めて書くようにしました(図3)。ここには、列挙されているだけのメモ欄のメモから同じ分類のものをひとまとめにします。右側のページにはそれに対応するように調べた項目名と内容を箇条書きにまとめたものを書きます。プレゼンテーション実習の際には、左側のページが口頭発表の原稿に、右側のページが発表スライドに対応します。

メモをとらせ、メモを整理するというだけでも、他人の言葉を単に書き写したのではなく、自分の言葉を使った表現に変えることができるようになりました。

プレゼンテーション発表では、相互評価を行いながら、自分のコースではない国や都市の内容についても知ることができたこと、生徒たちも満足した様子でした。

5. 事前事後学習Webサイト制作

本校は2学期制であるため、前述のプレゼンテーション実習までがちょうど前期の内容になります。11月下旬に海外研修旅行が実施されるため、後期に入ると海外研修旅行に対する意識がずいぶん高まってきます。「情報C」の授業でも、生徒たちの海外研修旅行に対するモチベーションを利用して、研修旅行を軸としたWebサイトの制作実習を行いました(前述カリキュラム表:8)。

Webサイト制作実習では、どのようなコンテンツのものを作らせるかということがポイントになりますが、ここでは自己紹介、外部リンク集、研修旅行事前学習、研修旅行報告・感想を主なコンテンツとしました。ここでもワークシートを用意し、サイトマップを作成してから実際の制作に取りかからせました。

自己紹介ページや外部リンク集ページは各自の思い思いに作成することができますが、研修旅行事前学習ページの場合、情報の収集・加工のプロ

セスを経ることになるのですが、プレゼンテーション実習においてすでにそれらのプロセスは終わっています。プレゼンテーション実習で使用したワークシートと、コース別学習会で使用しているノート(同じコースの生徒の課題レポートをまとめて配布したもの)をこの実習でも持ってくるように指示しました。

本校ではMacromedia Dreamweaver MX 2004を利用してWebページを作らせていますが、ページ間のハイパーリンクの概念、ページの作成方法、ロゴなどの画像の制作方法、画像の挿入方法など、基本的に習得しなければならない事項は多く、かつ行事や休日等の関係でこの単元に10時間前後しか確保できないため、自己紹介や外部リンク集などのコンテンツを作成させていると、研修旅行出発前に事前学習ページの制作に費やすことができる時間はかなり限られてきます。その点でもこの方法は大変有効でした。

11月下旬には研修旅行が実施され、12月の研修旅行後の授業では、定期試験を挟むこともあり、ほぼ報告・感想のコンテンツ作り専念することになります。研修旅行出発前までに事前学習コンテンツを完成させることが指導上の一つのポイントになりました。

6. 実施上留意した点

調べ学習から情報発信へのプロセスを授業で体験させる際、どうしても問題になるのが著作権です。Web上に掲載されている文章をほぼそのまま、あるいは一部改変したものを自分の作品として公開してしまうということが起こってしまいます。

プレゼンテーション実習においては、発表スライドを作成する際に、スライドに文章を載せないように、スライドに載せる情報量はできるだけ少なくし、キーワードやキーセンテンスを中心に掲載するように指導しました。たとえ口頭発表の原稿はWeb上の文章とほぼ変わりなかったとしても、スライド作りで端的にまとめる作業は、発表する内容そのものについての理解の定着を図る上でも効果的な作業となりました。

Webサイト制作実習の前に知的財産権に関する内容を取り扱い、Webサイト実習では注意するように呼びかけを行いました(前述カリキュラ



図4 授業用ポータルサイトの例

ム表:7)。さらに事前学習コンテンツ作りでは、プレゼンテーション実習で作ったスライドでまとめたキーワードやキーセンテンスをつないで文章化することで、自分の言葉に変えていく術を指導しました。

実際にはWeb上の文章をほぼそのまま掲載している例もいくつか見られました。Webサイト制作実習では、毎授業後に完成度をチェックし、授業用ポータルサイトに評価とコメントを載せるようにしています(図4)。⁴⁾ その際、およそその生徒が書いたと思えないような立派な文章を目にした場合、文章の一部を語尾を除いて検索エンジンにかけると、すぐに元の文章を見出すことができます。著作権に違反した文章を見つけた場合、そのことをもって評価に影響することはないことを事前に断ったうえで、当該生徒のコメント欄に複製元のURLへのリンクも付けて違反している旨を掲載し、その都度クラス全体に注意を呼びかけました。

Webサイト制作実習を終えての感想を生徒から集めた際、著作権について注意が必要であることを強く認識したとの感想が多く寄せられ、実習を通して著作権保護の意識を育てることもできたと考えています。

7. 現状の課題点

これらの取り組みは、海外研修旅行を単なる物見遊山にせず、事前事後の学習を含めて研修を行うという意識を持たせるためにも有益な取り組みであったと思っています。

しかしながら、「情報C」の取り組みが、学年団の行っている海外研修旅行コース別学習会の取り組みと必ずしもうまく連携が進んでいるわけではありません。「情報C」で使用したワークシートは、コース別学習会にも利用できるものと位置づけて

作成しました。「情報C」の授業では生徒に活用を呼びかけましたが、コース別学習会を行う学年団に十分な理解が得られなかったことが課題として残っています。

今後は学年団とともに、共通で使用できるワークシートを作成したり、生徒への課題を共有したりといった連携を強め、より横断的な指導ができるように工夫が必要だと考えます。

8. 更なる展開について

2008年1月17日に中教審より発表された「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」⁵⁾では、「社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項」の1番目の項目として情報教育を取り上げ、ICTの効果的な活用による情報活用能力の育成の必要性が強調されています。

まだ学校としての議論は経っていませんが、今後は学年団だけでなく他教科や校務分掌などと横の連携の強化を探求していきたいと考えています。例えば、国語科と連携して情報の編集や表現の指導を強化したり、社会科と連携して研修旅行の行き先の歴史や国際関係に関するトピックについての理解を深めたりといった具合に、連携の可能性は大きく広がっていると思います。

本校の教育の柱であり、大きな特色でもある海外研修旅行の取り組みを教科活動全般の中で展開するならば、より総合的な学力の形成を図る、学校作りの一つのモデルともなり得ると考えています。

参考文献

- 1) 長谷川友彦「コミュニケーションの視点を軸にした教科「情報」の実践」『ICT・Education』No.31, 日本文教出版, 2006年
- 2) 長谷川友彦「「コミュニケーション」を軸にした教科「情報」の指導」『学習情報研究』2006年9月号, 財団法人学習ソフトウェア情報研究センター, 2006年
- 3) 日本教育工学振興会「情報モラル指導ポータルサイト(未定)」, URL未定
- 4) 長谷川友彦「相互評価を活用したウェブページ制作実習」『エデューカーレ』No.14, 第一学習社, 2006年
- 5) 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」2008年1月17日
(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/news/20080117.pdf)